

表3 各学習・教育目標の達成度評価対象とその評価方法および評価基準

学習・教育目標		関連する基準 1(1)(i)～(v) の項目	評価方法	備考
(A) 課題提案能力	<p>実験結果や調査結果等の情報に基づき、問題の本質を把握し、解決すべき課題を提案できること。</p> <p>研究結果を総括し、学会等に発表できること。</p>	(iii) (iv) (v)	<p>修士論文研究において、適切な課題設定および目標設定をさせ、2年間で5回の定期的な自己達成度評価レポートを提出させ評価する。研究成果を学会で発表させ、その実績を評価する。また、作成された修士論文および修士論文発表を3名以上の査読教員で査読および評価し、修士論文が認定されること。</p> <p>必修科目「特別セミナーI」「特別セミナーII」において、技術的論文や報告書あるいは、学会での講演を調査および報告をさせ、これら进行评估し、これらの単位が認定されること。</p>	
(B) 課題解決能力	<p>実験結果や調査結果等の情報に基づき、解決すべき課題を適切に解決できること。</p> <p>化学工学技術者は、社会において多くの分野における技術的問題を解決できる能力が必要であることから、多分野の問題解決能力を有すること。</p>	(i) (iii)	<p>修士論文が認定されること。(評価方法は同上)</p> <p>必修科目「物質工学研究I」「物質工学研究II」において、物質工学研究実施報告書および同総括報告書を提出させ、これ进行评估し、これらの単位が認定されること。</p>	

(C) 関連分野の応用能力	無機化学や有機化学などの化学分野の基本的事柄を応用できる能力を有すること。	(ii)	修士論文が認定されること。(評価方法は同上)	
	化学の基本分野以外の、化学に関連した分野の事柄を応用できる能力を有すること。		8科目の選択必修科目「無機化学特論」「物理化学特論」「有機化学特論」「無機材料特論」「高分子材料特論」「溶液化学特論」「量子工学特論」「物性工学特論」の中から1科目の修得が認定されること。評価方法はそれぞれの科目に関するレポートおよび試験によってなされる。	
(D) 環境への配慮	環境に与える影響を考慮した天然資源や天然エネルギーを活用する能力を有すること。	(ii) (iii)	7科目の選択科目「化学工学実験法特論」「有機材料工学特論」「電子材料特論」「機能材料特論」「化学情報特論」「情報システム論」「情報セキュリティ論」の中から1科目の修得が認定されること。評価方法はそれぞれの科目に関するレポートおよび試験によってなされる。	
(E) 高度な専門分野の能力	化学工学の主要科目である、分離工学、反応工学、移動現象論、プロセス工学に関する知識と技術を合理的に活用する能力を有すること。	(i)	3科目の選択必修科目(コア科目)「反応工学特論」「プロセス工学特論」「輸送現象特論」と1科目の選択科目「分離・粉体工学特論」を含め、4科目全ての修得が認定されること。評価方法はそれぞれの科目に関するレポートおよび試験によってなされる。	

<p>(F) 調査・検証能力</p>	<p>国際的な化学技術を理解し、特許等の知的財産を活用できる能力を有すること。また、海外の技術者との技術的あるいは経営的な意見交換ができる能力を有すること。</p>	<p>(iv)</p>	<p>2科目の選択必修科目「MOT ベンチャー戦略論 I」「MOT ベンチャー戦略論 II」および1科目の選択科目「技術英語特論」の中から1科目の修得が認定されること。評価方法はそれぞれの科目に関するレポートおよび試験によってなされる。</p>	
<p>(G) 技術者倫理</p>	<p>技術者としての倫理観を有し、社会に貢献する意識を有すること。</p>	<p>(v)</p>	<p>2科目の選択必修科目「インターンシップ」「技術者倫理特論」および1科目の選択科目「科学技術政策特論」の中から1科目の修得が認定されること。評価方法はそれぞれの科目に関するレポートおよび試験によってなされる。</p>	